

## 室鳩巢「兼山秘策」にみる貧困の原因と対応策

増山道康

日本の政策思想の底流には、儒教がある。貧困に対する政策、制度も儒教に立脚している。そこで、日本儒教における貧困分析および対応策をさぐる。

ここでは、室鳩巢「兼山秘策」にある貧困原因と対応策について述べる。

「兼山秘策」の中で、1713年7代将軍に建白した新井白石の意見書に基づいて貧困原因と対応策を記述している。

室は、まず新井の意見として将軍家以下の贅沢が過ぎるため、それを改め、儉約をしていく必要があるとしている。続けて、貨幣の品位低下によるインフレーション傾向と、武家や民衆の風俗（気質、生活様式等）が、華美になったため、価格が上昇しているが、それでも高価な物を購入する傾向が強いことをあげている。

対応策として、農漁村産品の価格を引き下げと風俗を改め、華美な物品の購入を制限することをあげている。

また、将軍以下幕府の意思・感覚を重視している。その後、物価高騰の原因を12箇条挙げている。

- 1 諸物の運上を被召上候事
- 2 大錢を鑄られ候事
- 3 近年以の外米の数減じ候
- 4 御料の御成法ゆるび来り候事
- 5 御普請有之候所々其数多く候
- 6 御本丸を始候て所々の御殿を作られし数も多く、其他御建立の寺社も不少
- 7 所々御成の事、其家々にて御殿を作り出し、御儲の費有之候
- 8 上より被下物の事、其頃一位様に被進物を始め
- 9 諸大名の常例の外献上物共の事、又諸国士民の及困窮候
- 10 諸大名火消役を被承候所々多有之候事、其頃には諸家にて人数を多く召寄
- 11 当地町役多く成候事、店賃の増候て其費を償ひ候得共
- 12 武士屋敷並新町多く出来候事、江戸詰の人数も相増候様に成候、衣食、器具の類、其数も亦古来には二三倍し候

こうした人口の自然増と公共事業や基礎的消費の増加により、インフレ基調となり、物価上昇による各階層が、窮乏しつつあるという認識を持っている。